

平成27年9月町議会定例会一般質問通告概要

H27.9.9(水)

※ 質問順番

1番	澤井 峰子	議員	4番	村上 紀義	議員
2番	岡田 健治	議員	5番	亀山 彰	議員
3番	後藤 智文	議員	6番	内山 昭	議員
			7番	石田 孝夫	議員

1番 澤井 峰子 議員

1. 人口減対策について

- (1) 町内高校生が県外へ進学するにあたり、新幹線通学定期への補助があれば安心だとの声がある。今後、若者の流出を防ぐ一因となると考えるが、町の見解を伺う。
- (2) 出合い応援事業「おむすびくらぶ」の取り組みの内容がより幅広く、具体的にになってきている。事業開始からの実績や成果、マッチングや成婚に向けて今後の課題は。

2. 新型ノロウイルスへの対策

新たな遺伝子型のノロウイルスがこの秋以降、流行する恐れがあると富山県衛生研究所の調査が報道されている。免疫を持たない人が多いことから、唯一の予防は「手洗い」とされている。

- (1) 早い段階で、重症化しやすい乳幼児や高齢者への呼びかけ、保育所や学校、福祉施設等、予防へ対策が重要である。予防の実施計画は。
- (2) 町民の方が集まるスーパーや飲食店等、商工会を通じて消毒液の配置や手洗いの啓発の協力計画はあるか。

3. 子育て支援について

病児・病後児保育施設を整備する保育所建設事業が計上された。子育て支援の拡充は、子育てと仕事の両立をするうえで大切な拠点である故に、柔軟で利用しやすいものが重要である。

- (1) 対象者や定員数、施設の内容や利用額等、どのような内容であるのか。
- (2) 日中、保育所や小学校で体調が悪化した場合、その施設の利用は可能なのか。
- (3) ファミリーサポート事業との連携は考えているか。

4. マイナンバー制度について

来月10月5日より、マイナンバー通知が始まる。先日発表になった内閣府調査の結果は、2月の調査結果よりも周知はあがっているが、半数以上の人「内容までは知らない」との結果であった。さらに、「不正利用による被害や情報漏えいによるプライバシーの侵害」への不安の声も広がっている。

- (1) 安心してマイナンバー制度を活用できるよう、町民への丁寧な周知が更に必要であるが、町の対策は。
- (2) マイナンバー通知後の手続きの流れ、また使用できる内容は。
- (3) マイナンバー導入による行政手続きの簡素化が見込まれるが、わが町の体制はどのように考えているか。
- (4) 情報弱者といわれる高齢者や障がい者への周知、また様々な理由で避難先で受け取る方への配慮は。

2番 岡田 健治 議員

1. 町道の整備遵守について

町道の拡幅要望や改良要望に拠って、道路の変更やバイパス道が実施されたと思うが、町と村を結ぶ道路は、旧村道であったはずのところ、改良工事時には、損傷や改修の必要があった場合は、町で整備する確約があったと聞くが、相互文書で確認を添えてなかったため放置されてきたと思う。現在は、地域道・集落道ではあるが、住民と確約したものは、遵守すべきでないか。

2. 公民館長等の任命について

旧社会教育法では、第28条2項で、公民館長の任命にあたっては、あらかじめ運営審議委員会の意見を聞かなければならないとあったが、現行では、当該市町村の教育委員会が任命するとの条文だけになった。公民館は、市町村が設置するとの条文に拠って市町村が設置する公民館の館長、主事その他必要な職員は教育長の推薦により、教育委員会が任命する。との条文がある以上、任命に関しては、一定の基準の設置がしかるべきと思うがどうか。

敬老会等を運営する公民館にあつては、自らが敬老者で望ましいとは思わないが、見解は。

3. スポーツ推進委員の専門課程の研修について

1964年の東京オリンピック時に導入された体育指導委員は、50年以上を経て、今、2020年のオリンピックへと動きだしている。

地域スポーツを支える推進委員ではあるが、日体協の指導員資格の研修など、21世紀のコンセンサスとガバナンスが進んでいる。報酬手当ても公民館長や主事と比べても、決して低くない。十分な研修で資格付与を充実させるべきだと思うがどうか。

4. 新幹線効果と立山観光の進捗状況について

北陸新幹線開業に伴い、どのような効果があったと考えるか。また、立山への観光客数など影響はどうか。

観光パンフレットや立山ガイド・しおりに集客への工夫や、英語版等の外国語版が必要だと思うが、どうか。

5. 標準賃借料について

平成21年に農地法が改正されて、標準小作料制度が廃止されたが、農地の賃借料の公平な目安の観点から、町独自の標準賃借料を示しておられますが、一方では、貸し手と借り手の間において、地域差があつて混乱しているようにも見受けられます。三角の田もあれば、小さい田で作業能率の悪い田や柔らかくトラクターも入らぬ田もあつて、大変なところもある。所有農家と担い手農家との交渉に拠って決めるのは、自由経済の根本ではありますが、所有農家が、固定資産税や水利権料・土地改良負担金も払えないような設定であれば、なかなか田の集約も進まぬと思うが、農業委員会としての苦慮や見解はどうか。

6. 草刈り・病中害情報の発信や水門整備・補修について

営農情報などで農家への情報発信はされているが、県道の草刈り（インターの中、中央分離帯を含む）への情報伝達はしているのか。同時に実施しないと意味がないと

思うがどうか。また、水路水門の管理は土地改良区だと承知しているが、電柵事件もある。水門の数や整備状況・補修状況について、どう把握しているか。老朽化している水門の補修を土改と一緒に方策を。

3番 後藤 智文 議員

1. 安全保障法案について町長に再度問う

- (1) 90%以上の憲法学者がこの法案について「違憲」といい、元最高裁長官も同調している。憲法に合致しているか違憲か、どう考えるか。
- (2) 国会周辺へ12万にのぼる人々が集結し、この法案の廃案を求めた事実についてどう思うか。
- (3) 町民に責任を持つ町長として、国民の半数以上の人々が反対しているこの法案について賛成か反対か。

2. 陸掘り問題について

- (1) 町長の責任の取り方は3カ月の減給というのはどういう根拠か。
- (2) 町の損害額が多いことから責任は大変重いと思うが、これだけで済ましていいのか疑問に思う町民が多い。以前20%減給していたことを考えると、今回の減給率と期間で大多数の町民に納得してもらえらると思うか。

3. 固定資産税率を元に戻すことについて

消費税の増加などで町民の生活は厳しくなる中で、未だに固定資産税率を元に戻してほしいという声を聞く。当初の目的から大きく変わったのなら元に戻し、再度議会なりに問うべきではないか。

4. 委員会行政視察から学んだことについて

- (1) 中学校の修学旅行は、これまで広島や長崎の原爆の悲惨さを学ぶことが多かった。今回視察して沖縄県の戦争の悲惨さも大変なものである。それを知るためにも修学旅行の選択肢の1コースとして取り入れられないか。
- (2) 農家民泊が取り組まれているが、視察から学んだ教育的価値は、2泊3日にしてこそ子供たちが本当に感動して帰って行くということだった。町の民泊の取り組みも町での2泊3日を視野に入れて、子供たちの充実した修学旅行にすべきではないか。

5. 学校統廃合について

6月議会でも質問したが、再度質問する。

- (1) 存続を決めた学校へは、子供たちの学ぶ教育権を保障するために、これまで通り講師を派遣すべきではないか。
- (2) 新瀬戸小学校が休校になり、来年度から2つの学校へ行く。このように校区の縛りを外して自由に学校を選べるとしたら地域崩壊につながるのではないか。

6. 防災無線のあり方について

- (1) 先日、岩嶺寺の自主防災訓練があった。その時に岩嶺公民館の防災無線がほとんど聞こえなかった。62人の参加のうち、聞こえた人はわずか4~5人しかいない状態だった。各防災無線の点検をし、もし、不備があれば計画的に本来の役割が果たせるように増設すべきではないか。

7. 福祉タクシーについて

12月議会で福祉タクシー（車いす用タクシー）の導入について質問したところ、検討するとしていたがその後どう取り組まれているか。

8. マイナンバー制度について

- (1) 税や社会保障、金融や医療などあらゆる個人情報マイナンバーに記録するものですが、リスクが多く、いったん情報が漏れると大変なことになる。町でのセキュリティー対策は大丈夫か。
- (2) 内閣府の調査でマイナンバーの内容を知らない人が半数以上だ。国民の支持や理解が広がらない制度は急ぐ必要はない。来年1月からの実施は延期すべきではないか。

9. 健康増進について

グリーンパーク吉峰のパークゴルフ場が拡張される。老若男女が取り組めるものであり、開場される時は、健康維持向上のために「町民パークゴルフ大会」を開催したらどうか。

4番 村上 紀義 議員

1. 福祉対策について

1. 生活困窮者自立支援制度について

生活保護までに至らないが、生活が苦しい困窮者に自立相談や家計相談、離職者の就労支援や家賃の給付、貧困世帯の子どもの学習支援等を行う生活困窮者自立支援法が本年4月から施行された。本町の取り組み状況について問う。

- (1) 制度の周知はどのようになされているのか。
- (2) 相談支援事業の担当窓口はどこか。また、相談支援員は確保されているのか。
- (3) 窓口での相談がしやすい雰囲気づくりが重視されるが、どのように配置がなされているのか。
- (4) 開設されてこれまでの相談状況は。

2. ひとり親・生活困窮世帯に充実した支援を

子どもの貧困状態にある大半がひとり親世帯との調査結果がある。経済的に苦勞されている家庭が多い。子どもは十分な教育を受けることが出来ないハンディーを背負い希望の学校・職種に就けない現状もある。本町の支援策について問う。

- (1) 将来ある子ども達が明るい夢と希望が持てるようきめ細かい支援がとても大切である。就学援助等、町の現況と支援体制は。
- (2) 学校給食費の遅滞、長期未納が問題視されている。保護者負担の軽減等町の給食費の支援状況と未納状況について。また悪質と思える未納はあるか。

3. 高齢者（世帯）の買い物支援について

「買い物難民（弱者）」という言葉が最近耳にする。近間にあった商店・商店街の相次ぐ閉店や撤退、店舗の郊外化等、パーソナルな交通手段（自動車、バイク、自転車等）での日常生活の買い物ができない高齢者が大変困っている。買い物困難な高齢者世帯に対しての現状と今後の支援事業についての考えを問う。

4. 高齢者の死亡事故について

警察庁が発表した上半期の交通事故死者は2年連続の減少だった。本県では8月末で、昨年同期16人増の45人、65歳以上の高齢者は31人となっている。特に高齢者が絡む交通死亡事故が多発している。運転免許証の自主返納制度もあるが事故防止に向けた本町の取り組みについて問う。

2. マイナンバー制度について

来年1月から制度開始のマイナンバー制度。

10月以降個人番号が通知される。自治体のセキュリティー強化対策や喫緊の課題策について問う。

- (1) マイナンバー制度の取扱い担当窓口と準備状況は。個人情報漏えいが危惧されているが万全か。
- (2) 本町住民もマイナンバー制度に対し理解や認知度が低いのではないか。今後の作業スケジュール及び周知対策は。
- (3) マイナンバーが記載された「通知カード」が10月以降住民票を有する町民すべてに送付されるが、紛失や破棄される可能性も高いと考えられるが、個人カードへの移行はスムーズに行くのか。
- (4) マイナンバー制度の導入によっての利便性は。町民、行政のメリットは。
- (5) 中小の企業では受け入れ対応が遅れているようだ。システム改修やセキュリティー対策経費等で二の足を踏んでいると聞かすが、準備不足から間に合わないのでは。

3. 投票率の向上について

選挙権年齢を18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が公布された。最近の各種選挙では投票率が低い状態にある。

- (1) 選挙権年齢が18歳以上の引き下げで本町有権者の増加数は。また近年20歳代の投票率が低い状態にあるが本町の実態は。投票率向上にむけての施策は。
- (2) 児童・生徒の教育の一環として子ども議会や模擬投票に取り組んでいる自治体もあると聞く。本町の小・中学校での学校教育で政治についての学習の取り入れは。

4. 子どもの安全をどう守るか（ネット依存症対策）

ネット依存症が急増している中に、子どもの発症が危惧されている。また年々低年齢化傾向にある。立山区域地域ぐるみ教育研究会では本年度、小・中学校ではノーメディアデー、高等学校ではイレブン・セブン運動に取り組んでいると聞く。いじめの要因にもなるスマホ、SNS、LINE使用。インターネット接続による有害情報も気になる。ネット依存が社会問題になっているが、教育委員会として児童・生徒の使用状況について実態調査をなされたか。現状と今後の指導体制について問う。

5番 亀山 彰 議員

1. 若者数増、人口減対策として

- (1) 大都市へ進学、そして立山町に戻らず就職する若者が多い。雄山高校は、元富山大学校舎跡と聞いている。毎年のように、新設、新学部、新学科の認可がでてます。お隣の旧大山町には富山国際大学がある。若者達が集う立山町を目指し、大学誘致はできないか。
- (2) 富山市は北陸新幹線で通学する学生に定期代を補助する制度を導入している。町と

して、県内大学や専門学校、あるいは、金沢方面などに自宅から通学している学生に通学補助はできないか。

2. 橋梁の長寿命化や道路舗装に係る取り組みについて

高度成長期に整備された社会資本が、今後、一齐に補修時期を迎えることが全国的にも課題となっており、立山町においても特に橋梁や道路の舗装について補修が集中することが喫緊の課題となることが予想される。

これをうけ、今後町として、現在工事中の岩嶺寺1号線など、橋梁の長寿命化や地区要望にも多い舗装の補修に係る取り組みは。

3. 自転車にも配慮した道路

県は「田園サイクリングコース」を整備する計画を立てている。立山町も通過する予定とのこと。点検整備される事と思われる。称名滝、桂台、立山駅を目指してサイクリングを楽しむ人が毎日のようにいる。宮路交差点付近の横断側溝はグレーチングの目が荒くロードバイクのタイヤが挟まります。千垣、芦嶺寺の県道のような目や色分けで安心して通過できるようにするべきではないか。

4 世界ジオパークを目指せについて

- (1) 日本ジオパークの認定から一年が過ぎジオパークについて幾度となく質問させていただきました。

委員会の視察で三陸ジオパークのポスターを見かけることができた。「めざそう!! 世界の三陸ジオパーク」と書いてあった。 今年の視察の下田といい、しっかりと市、町、地域がサポートしています。では立山町はどうか。ジオガイドは誕生してはいるが、文字さえ目にしない。ポスターは完成したが、庁舎内に貼ってあるのか。町としてどのように協力するのか。

- (2) 隣町陽南小学校で取り入れている、子どもたちにジオパークを取り上げる学習を取り入れるつもりはないか。

6番 内山 昭 議員

1. 更なる低炭素社会に向けた施策について

立山町では、この問題解決に向け、平成25年度に町内全域の防犯灯を一斉にLEDに交換しました。また、平成26年度には新しい保育園に地中熱空調設備を、役場庁舎や特別養護老人ホームに高効率空調を導入するなど、消費電力削減および維持費の低減など省エネ・グリーン化を進められました。

そして平成27年度には「低炭素・環境・自然共生」地域創生実現プランのモデル地域として選定を受け、更なる低炭素社会づくりに地域一体となって取り組む必要がありますが、どのような施策をお持ちかお尋ねします。

2. 飲み残し処方薬の解消について

特に高齢者宅から、処方された飲み残しの薬が大量に見つかる事例が社会問題化しています。厚生労働省は来年度から、飲み残し薬解消に向けて薬を一元管理し、患者への適切な服薬指導を行う「かかりつけ薬局」の普及をめざしているようですが、町での対応、取り組みについてお尋ねします。

3. ヘルスケアポイントの導入について

健康づくりの取組みに特典を与える「ヘルスケアポイント」。楽しみながら病気やけがの予防にもつながる試みとして今、注目を集めています。厚生労働省は近く、ヘルスケアポイント制度の普及に向けた検討会を立ち上げるとのこと。ヘルスケアポイント導入の効果を示す事例も報告されており、全国6市が国の補助を得て、2014年度から社会実験として実施しているとのことであるが、来年4月から施行される制度に向け、何か具体策をお持ちかお訪ねします。

4. 立山カルデラ砂防フィールドミュージアムの体験学習について

平成21年度に砂防施設として、日本初となる国重要ミュージアムの体験学習について文化財に指定されたことは「知られざるもう一つの立山」を広く紹介する絶好の機会であり、地域活性化にも結びつくものとして期待できます。

立山砂防工事は、洪水災害の真っ只中に身を置く私達にとって、100年近い取り組みの歴史とその現場を見れば、世界観さえ変わってしまいます。

この奥山の秘境、立山カルデラ砂防フィールドミュージアムに若い世代、特に中学生の皆さんに体験学習として、参加していただいているかと思いますが、見解をお伺いします。

7番 石田 孝夫 議員

1. デマンドタクシーの導入について

デマンドタクシーとは公共交通を利用しづらい人やマイカーを運転できない高齢者らの利便性向上が期待され、予約制乗合方式で、中山間地の高齢者だけでなく街中の高齢者など、町民誰もが利用でき、不公平感が解消できる利点がある。

全国で導入した市町村数は増加傾向にあり、赤字を抱える路線バス運行に比べてコストが少なく済み、時刻やルートを緩やかにすることで利用者本位のサービスを提供できる長所がある。

利用方法は、登録制で高齢者に限定し運行エリアを定める。高齢者の外出を促すことで「生活不活発病」と呼ばれる体力低下を防ぎ、医療費の増加を抑えられることから、運行する意義は大きい。住民の移動が盛んになることで、街中に活力をもたらすことができる。導入には、民間タクシー業者との連携が不可欠だが、町として導入を検討してみてはどうか。

2. 低所得高齢者について

国民年金の生活はとても苦しく、光熱水費・食費を抑えても、医療費を支払うと、手元に残る金額はわずかばかり。低所得高齢者に生活保護受給者並みの援助を行っていくべきではないか。

また、介護施設に入居したくとも、ますます低所得高齢者にはハードルが高くなっている。家族に支払い能力があっても、入居費を安くするために世帯分離などというシステムがあること自体間違っている。本当の低所得高齢者に門を開くべきではないか。

3. 町の活性化

元気交流ステーションのイベント広場の開放について

商業協同組合さんが指定管理を受けられ、工夫の中催し物をされ、ご苦労されている。しかし、利用されない日が多くあるように思われる。せっかくの施設が日頃利用されずに遊んでいるより、賑わい創出のため、町民に無償で開放してはどうか。

駅というメリットを生かし、月一のフリーマーケット、週末の夜には屋台村を開いて欲しいとの意見が多く聞かれる。やり方さえ工夫すれば人を呼び込むことができると思うが、新たな発想の中、民間に開放する気はないか。

4. 子供の生活問題と防犯カメラの設置について

(1) 社会問題になっている負の連鎖、貧困な子供が6人に1人いるといわれている。

また、先月、寝屋川市の中学1年生2人の悲惨な事件が最悪な結末になった。各学校ではどのように把握し向き合っているのか、教育委員会としてどのように取り組み指導を行っているのか。

(2) 犯罪の抑止力のため各要所に防犯カメラの増設を行うべきではないか。

5. 砦の丘にトイレを

砦の丘西側のトイレは離れているため利便性が悪く、防犯上、犯罪に使用されやすい位置にあり、子供に限らず大人の女性の方も不安を抱いている。

当初から疑問を投げかける声や、遊具の近くの公園内に造ってほしいとの声が多く上がっている。犯罪なく安心して利用できる場所に、公衆トイレを建設すべきではないか。

6. 危険な空き家対策について

いまだ危険な空き家住宅が放置されているが、空き家等対策協議会の設置や特定空き家の認定に取り組んでいるのか。

また、朽ち果てた建物の崩壊により、住民が事故に巻き込まれた場合、誰が責任をとることになるのか。

7. 平坦地マップの整備と施設改修について

史跡や観光といえば、芦峯や立山山岳が一般的に知られているが、平坦地の史跡や観光の名所は上段・東谷地区に多くが集中している。

吉峰・陶農館・昆虫王国周辺には、岩室の滝、特に大観峯展望台からは、立山町の平野、能登半島までの絶景を望むことができる。

以前は、休憩所やお店・バーベキュー施設もあり多くの人々で賑わっていたが、最近では施設も老朽化し、水道水もなく衛生状態が悪化している。

水道や衛生面が改善されれば、平坦地マップの中間地点として多くの観光客を呼び込むことが可能になると考えることから、大観峯休憩所に水道の敷設と、水回りの改修を求める。また、現在使用されている井戸水を飲料水とし利用するための滅菌は可能なのか。